

★月★ Oh! タカラヅカ対談 ★月★

TAKARAZUKA



思いきりのよさで いと高きパワーのショーを



愛華みれ

〈宝塚歌劇団・花組〉



真矢みき

〈宝塚歌劇団・花組〉



中村 暁

〈宝塚歌劇団・演出家〉

■宝塚歌劇団公演「ハイペリオン」
華やかに96年宝塚歌劇の新春の舞台を飾るのは、花組公演。日本物「花は花なり」と洋物「ハイペリオン」のショーの2本立て公演の稽古中に、主演の真矢みきさん、愛華みれさん、ショーを演出する中村暁さんに話を伺った。



中村 ギリシャ神話の神様の名前から「ハイペリオン」というタイトルを決めて、ショーの流れをつくっていきました。言葉の響きがおもしろいと思ったんです。

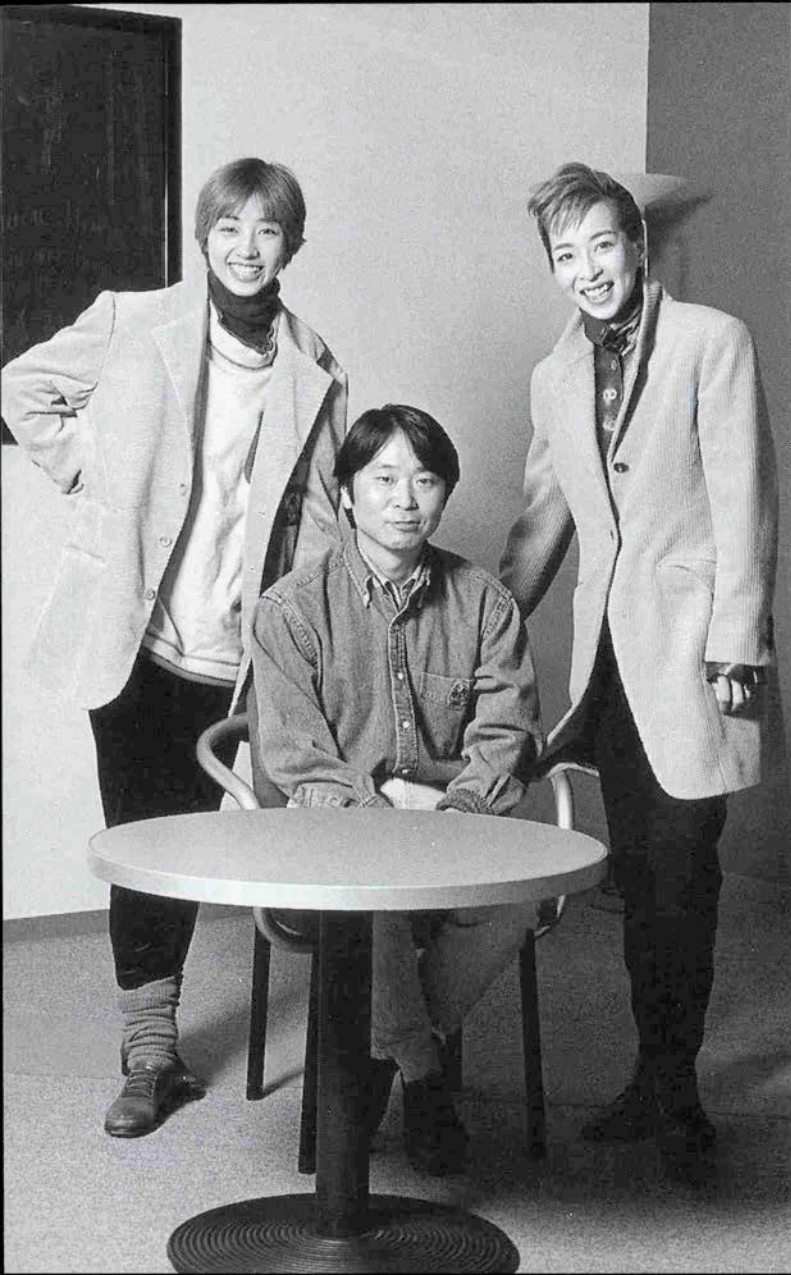
真矢 先生が出したい色、というのがショー全体を通じての大きなテーマだと思うので、最初に感じた響きなどは大切にしたいものです。この言葉知らなかったんです。中村 太陽神の名前です。全体を6つに分けて、小さい話をつないでいきます。プロローグでハイペリオン―太陽神の誕生を讀えて、未来への祈りを歌うかたちで始まります。全部が神様の話ではなくて、ハイペリオンには「いと高きもの」という意味もあるので、ハイクラスでいこうというショーにしたい。

愛華 場面が多彩で、私たちとても興味があるショーです。

中村 第3章がタモさん（愛華）の場面で、現代の青年があるおじいさんから貰った一本の笛を吹くと、別の世界に導かれる。そこで閉じ込められているお姫様を助けようとするけれども、自分も因われの身となってしまうという内容です。

愛華 振付が新しい方なのでとても楽しみです。

米米CLUBの主題歌が新しい刺激



中村 中詰めは、真矢さんが扮する海賊船のキャプテンキッドが奪ってきた財宝のことを歌う。そして宝石の館に着いて、宝石を象徴するダンスが広がっていきます。第5章ではドラキュラの真矢さんが現代に復活して、永遠の愛を探していく。結局、求められずに最後は大コウモリになって飛んでいく。そこで米米CLUBが作った「PUT ON THE CROS MY HEART」を歌うのが目玉。

真矢 これまで歌った歌とはやはり雰囲気違いますね。

中村 心情としては永遠の恋人を求めながら、マドンナに振られた寅さんが、まだどこかに流れていく。それが場面としては大コウモリ状態で飛んでいくと説明してドラキュラの歌を作ってもらいました。米米CLUBはバンドとしてのパフォーマンスを、装置、美術トータルで考えた形で大事にしている。そんな考えから生まれる曲が、また宝塚の新しい刺激になれば良い。

真矢 バンドまで踊らしたりするし、ひとつの完璧主義者だと思うんです。みんなで作り上げていく楽しみを全

員が分かっている。しかも自分のポジションを、その時点での満足と割り切って、次の時点では別のものに变えたいと思っている。そんな米米CLUBの団結力や固定しない思いきりのよさが好きだし、私も宝塚でそうありたいと思う。

全員でテーマを表現したい

愛華 中村先生にはバウホールの初主演のときにお世話になったんです。憎い台詞とか心情があって、役の人物が自分自身の持ち味を探すのが先



生の方向かなと思っていたんです。ショーで一緒にするのが初めてなので楽しみですし、早く私も自分を探したいなと思っています。

真矢 先生の「心の旅路」のおかげでファンが増えたんです。ありがとうございました（笑）。いまだにあのハリスンは人気第一位です。三枚目とか二枚目半が合っていると言われ続けていて、合っていたというより他にやる人がいなかっただけなんです。その中でボンと正統派の洪めの役をやらせていただいて、自分の中で変わりましたね。芸名の範囲が広がりましたし。先生はご自身が溜め込んでいらつしやるものが一杯ある。でも、言葉は少ないんです。

愛華 シャイなんです、きつと。中村 そんなことはないです。

真矢 まるで昨日思いついたんだ、みたいに言われることから想像力で聞いているのが楽しいです。先生の頭の中には、ついていけないおもしろさ、私とは違う発想源がある。たとえば、という説明の話が飛んでいて、聞いていてうれしくなります。

中村 芝居にしてもショーを作るに

しても、ここではないどこかに何かを求めている。もう一つの世界を旅してまた戻ってくることを志にしている。自分の願望であるのかもしれないけど。出来上がりとしては、見てください。聞いて楽しいのが一番好きなのでそういう作品でありたい。

だいぶ大人に、おじさんになってきたのでシックな感じもいいなあと、少しいれています。真矢みきさんは、下級生のころは器用さが目立っていた。いまやそれだけでなく一番宝塚の男役らしい。タモさんは押し出しは弱いけれども、そこにいるだけでさわやかさがあるという存在感はある。二人の違った個性がショーの中でうまく出ればいいと思います。

真矢 先生の発想からスタートして、振りが付き衣装を着て、装置やライントが揃ってはじめてひとつのシーンになる。私は結構アドリブを言っちゃうほうなんです、その場面の見せ方、先生の発想を伝える手段の補足説明として言ってるんです。今回は、米米C L U Bさんに習って、みんな先生がこういうことをやりたんだということを、きちんとやるのが目標ですね。全員がいつせいに楽しんでやっていたら全然違うものになりますから。それと一貫性。

愛華 流れが大切ですね。

中村 ショーの演出は、打ち合わせのときに大体決め込むことが多いので、稽古場ではできるだけ邪魔しな

いようにしています。あとはみんなが楽しくやって、きれいに見えればいい。見えるものがすべてですから。

愛華 芝居は役名がありますけど、ショーはその場その場である程度自分の芸名なり、自分自身が表現しなければならぬものがある。表現力をもつて、各場面でいろんな色を出したい。周りの人の刺激や自分の中のコンプレックスを良いふうに変えていけるようにやっていきたいです。押し出しが弱いと言われ続けているので、押し出してみようと思います。**真矢** 自分が楽しむことが私にとってエネルギー源。その場面を好きだと思ふ稽古をしたら、舞台でエネルギーは自然と出る。それと、構えない。やるぞ！ではなく、さあ楽しもう精神ですね。そのまま突進したら凄いいことになるというのが分かったから。先生方がおっしゃっていることを真剣に捉えてやっていったら、自分がない色を見つけていただける。引き出しが増えるのはそういうことだと思ふんです。細かく不得意分野に首を突っ込んで、挑戦していきたい公演です。（構成・瀬川）



●宝塚「夢と華」写真集

菊池健志さん刊行



「あんなどこがええねん」と見もしないで宝塚の悪口を言っていた堺市の中学生だった菊池健志さん。

8年前、星組トップの峰さを理さんの退団記念公演を、アサヒグラフの仕事で撮影する偶然の機会から宝塚歌劇に魅せられてしまった。

朝日ソノラマから刊行された1994年大劇場公演の舞台写真は、トップたちが、大輪の花を咲かせ、一番美しく咲ききったときに舞台を去る潔しさと、次々と生まれてくるスターのきらめきを写し取っていて、見ごたえは十分。

阪神大震災でなくなれた先輩宇佐見正さん(朝日新聞大阪本社学芸部)に捧げた菊池健志カメラマンの想いは、宝塚のようにうるわしい。

¥3800

●3月31日ソプラノリサイタル

三木麻差子さん



神戸出身のオペラ歌手三木麻差子さんが3月31日、神戸朝日ホールでソプラノリサイタルを開く。麻差子さんは、東京でオペラなどの出演中だったが、両親が住む自宅が半壊したため帰神。「震災にあった人たちの心の癒しになればうれしいと願って企画しました」と話している。

麻差子さんは、大阪音楽大学卒。ルチアノ・ベルタニョリオ、西山恵子氏に師事。当日の曲目は、モンテヴェルディ「あまりにもむごい運命よ」スカルラッティ「いとしくやさしい人」ドニゼッティ「高い身分と豪華な暮らしに」など。ピアノは呉恵珠さん。

開場4時30分。開演5時。入場料¥2500。全自由席。

問い合わせは大阪音楽大学幸楽会
電話078・331・6362

HAND-MADE TAILORING FOR OVER CENTURY



The first in history & tradition

The top in prestige & creation

The best in quality & elegance

新春特別インタビュー

今年、創業113周年を迎える

総合多角毛織物商社『柴田グループ』。

クリツィア紳士服地のヌーベルクチュールをスタートした

新しい『金門株式会社』とは、



明治十六年以来、柴田グループは今年で創業百十三年を迎える。グループの兄弟会社として二十一世紀に向けて誕生した企画提案型の服地輸入商社、金門株式会社についてグループ代表柴田音吉氏ならびに新会社の社長に就任した近藤圭喜氏にお話を伺った。

柴田 ドーメルの服地では日本でナンバーワンの輸入量を誇る柴田グループですが、このごろはファッションでも英国調・ヨーロッパ調・イタリア調と非常に多様化してきています

ので、新しいコンセプトをもった独自のブランドが必要とかがね考えていました。

名前の由来は、柴田音吉洋服店の技術者のOBが集まる金門会という

のがあるんです。そこから「金門」と名づけられました。近藤社長は柴田グループで勤続三十年のベテランです。

金門が手掛けているのは文洋服の新しいプロジェクトです。オーダーメイド紳士服にもいろいろな形態があり、まず手作りで着やすさと格調を追求したハンドメイドスーツ。次にビジネスユニフォーム感覚でファクトリーメイドのイージーオーダー。そして「輸入ブレタのスタイルでオー

ダーの着心地を」というスローガンで登場した新しいオーダー。これが今大変注目されています。

近藤 金門は昨秋、クリツィア（ミラノ）及びジバンシイ（パリ）の両紳士服地の販売元になったことを記念し、「ヌーベルクチュール」をスタートしました。「ヌーベルクチュール」とはクリツィア紳士服地を使用し、クリツィアのエレガントでファッショナブルな雰囲気を作り出している演出するために開発された新しいオーダーシステムのことで

す。初年度は高島屋、阪急をはじめ全国三十店舗・コーナーで順調にスタートしましたが、これからどんどん人気が出てくると確信しています。このごろの男性は非常にお洒落になってきました。クリツィアは従来のオーダーにみられない独自の素材でコレクションされ、仕立て上がり十七万円から二十五万円ぐらい。軽くてソフトな仕上がり特徴です。今年はジバンシイのほうでもヨーロッパアンテリストの「ヌーベルクチュール」をはじめよう考えています。更に今秋にはモダンブリティッシュの新ブランドの導入も決定しており、将来非常に楽しみです。

柴田 柴田グループと金門は、共存共栄でオーダー業界の発展をめざします。

謹賀新年



近藤新社長(右)を激励する 柴田音吉グループ代表



For The Prestige Fashion Life

本店 〒650 神戸市中央区元町通 3-1-17 TEL078-334-2250
 西日本営業本部 〒541 大阪市中央区高麗橋 2-1-11 (柴田グループ第3ビル)
 東日本営業本部 〒104 東京都中央区八丁堀2-21-11 (柴田グループ第7ビル)
 ヨーロッパ事務所 VIA TOLENTINO, 2 MILANO

柴田商事株式会社
 東京柴田商事株式会社
 柴田フリティッシュ・テキスタイル株式会社
 トーメル・シャパン・リミテッド
 株式会社柴田音吉商店
 有限会社オー・エス・ソウイング
 株式会社サンロイヤル
 メルシトール株式会社
 柴田不動産株式会社

新 春
対 談



藍染のきもので

しやつきりと...

山村 楽正 (邦舞家)
笹倉 玄照 (笹倉玄照堂社長)

い。こういう竹でのたとえを着物に託しているわ。けですな。

楽正 そうですな。わて

楽正 笹倉先生おめでとうさんです。事始めが私たち芸事のお正月で、門下生がこのお鏡を贈ってくれまして、年の初めのあいさつをいたします。今日、美しい藍染めのご祝儀の着物をかけさせて頂きました。この竹の着物も先生に贈って頂きました。わ。おおきに。

玄照 師匠は何を着てもお美しい。贈り甲斐がありますわ(笑)。竹は上下に節があるとか、倒れた竹は一人で起きる、倒した雪は解けてなくなるとかいろんな言葉があります。人に助けてもろうて起きるんやなしに、倒れた竹は一人で起きてくる。人間も一人でやらないかんということ。目上や目の上下の節というのは、目上や目下、先輩後輩ということやけど、このごろはうどの大木人間や(笑)

らも、今日紹介して頂いた方が、どなたはんからのご紹介やったのか、そういう縁から縁のつながりを大切にしようおすな。玄照先生とは、永六輔さんのご紹介で出会いましたんやろか。

玄照 どっちがどっちやったんか分からんくらい深い縁です(笑)。今日はお稽古場の事始めに寄せて頂いて、お稽古も手塩にかけたのが大事ですわ。おむすびも塩をかけて手で握る、この暖かみで美味しくなるんです。

楽正 手塩にかけてやらんと何事も上手になりまへんわ。

玄照 何事によらず順序があります。

楽正 遊びの筆も怒りの筆もあるけれど、上手になるのには、その色んな工程を順序ようおそわって

積み重ねて行かなあきまへん。微に入り細にわたって教えてんのやからしつかり身に付けん。

—こんどの六月六日に生田神社の大屋根が完成します。お祝いと神戸復興の「日本の夕べ」を十五日に聞きたいのですが、ぜひ大和楽の「扇売り」を舞っていただきたいのですけれど...

楽正 私は神戸が大好きです。ハイカラで明るい。神戸復興と大和三千世先生も大好きなのでぜひ舞わせてもらいます。

玄照 私も生田神社で結婚式を挙げたんです。昭和三十三年、三十四年頃やけど、挙式は一万円で宮司、五千円が権禰宜、三千円がテープでした(笑)。それで私は五千円でしてもらいました。そのあと第一楼が四万円、全部で四万五千円(笑)。神戸も、倒れても一人で起きる竹のようなしなやかでたくましく以前にもまして美しく復興してもらいたいですな。



吉美藍木綿

会株
社武

笹倉玄照堂

〒541 大阪市中央区北浜2丁目6-9 北三ビル

☎ 06(223)1277 Fax 06(229)8080



KOBE EXCELLENT FASHION

maxim
マキシム

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

旧年中はひとかたならぬ世話になり心より御礼申し上げます。

震災後も神戸から全国へ向けて

オートクチュールからスチュワードスの制帽まで

あらゆるジャンルの婦人帽子をお届けしております。

本年も何卒よろしくお願い申し上げます。

代表取締役社長 渡邊百合



トアロードにあるマキシム本社
ここから全国へ神戸ファッションの帽子を発信し
ている

KOBE EXCELLENT SHOP

★よろず御機衣縫上處

神戸シヤリ

神戸市中央区三宮町3丁目1-6 ☎331-2168

★選りすぐった一点を…

Sanohe

神戸市中央区元町通2丁目5-7 ☎331-4707



LIZA

神戸市中央区三宮町2丁目6-1 ☎391-6806

★婦人帽子

maxim
マキシム

神戸市中央区北長狭通2丁目6-13 ☎331-6711
(トアロード)
全国有名百貨店婦人帽子売場

★神戸唯一のボルボネーゼトータルブティック

SALON DE BOUTIQUE
Borbo

神戸市中央区元町通3丁目1-12 ☎391-0014

★伝わる真ごころ最高の風格

金柴田音吉洋服店

神戸市中央区元町通3丁目1-17 ☎334-2250

※このシリーズは上記の専門店の提供によるものです。



白・ワイドブリムのブルトン型
平成5年6月伊勢神宮にて(ヴェールを付けて)

皇太子妃雅子さまご着用



ダークグリーン・ブルトン型
平成7年11月ユネスコ50周年記念式典にて

1996 A HAPPY NEW YEAR



太平洋真珠株式会社



ショールーム
KOBÉ KITANO

神戸市中央区中山手通2丁目10-5
TEL. (078) 261-3191
FAX. (078) 261-3193



今啓パール株式会社

本社・神戸市中央区山本通2丁目6-15
パールビル
TEL. (078) 242-3399(代)
ショールーム・TEL. (078) 242-7380(代)



タカハシパール株式会社

神戸市中央区山本通1丁目6-20
TEL. (078) 221-0075(代)
FAX. (078) 221-0141
製品部直通
TEL. (078) 221-6656
FAX. (078) 221-6625

人に、美しいもの。

大月真珠

神戸市中央区山港島中町6丁目4-1
TEL. (078) 303-2111
FAX. (078) 303-6250

田崎真珠

神戸市中央区山港島中町6丁目3-2
TEL. (078) 302-3321
FAX. (078) 302-4521

金子真珠株式会社 (株)金子真珠店

神戸市東灘区住吉本町3丁目15-31
TEL. (078) 822-1106(代)
FAX. (078) 822-4333



水木真珠有限公司

神戸市中央区加納町2丁目4-10
(水木ビルディング8F)
TEL. (078) 221-0029
FAX. (078) 242-0029



TEISHIN PEARLS 帝真貿易株式会社

本 社・神戸市中央区加納町4丁目8-17
ショールーム・TEL. (078) 391-2126
FAX. (078) 332-1551



森真珠 株式会社

本 社・神戸市中央区二宮町1丁目4-15
TEL. (078) 241-2125(P)
ショールーム・TEL. (078) 222-5881
オーバ店・TEL. (078) 262-2858
オーガスタ店・TEL. (078) 360-6050
心斎橋OPA店・TEL. (06) 258-3838
関空エアロプラザ
タカシマヤ店・TEL. (0724) 56-8188



久野真珠商会

神戸市中央区生田町1丁目4-20
(新神戸ビル)
TEL. (078) 242-1636
FAX. (078) 242-2125



本 社・神戸市中央区山本通2丁目5-3
TEL. (078) 231-8141

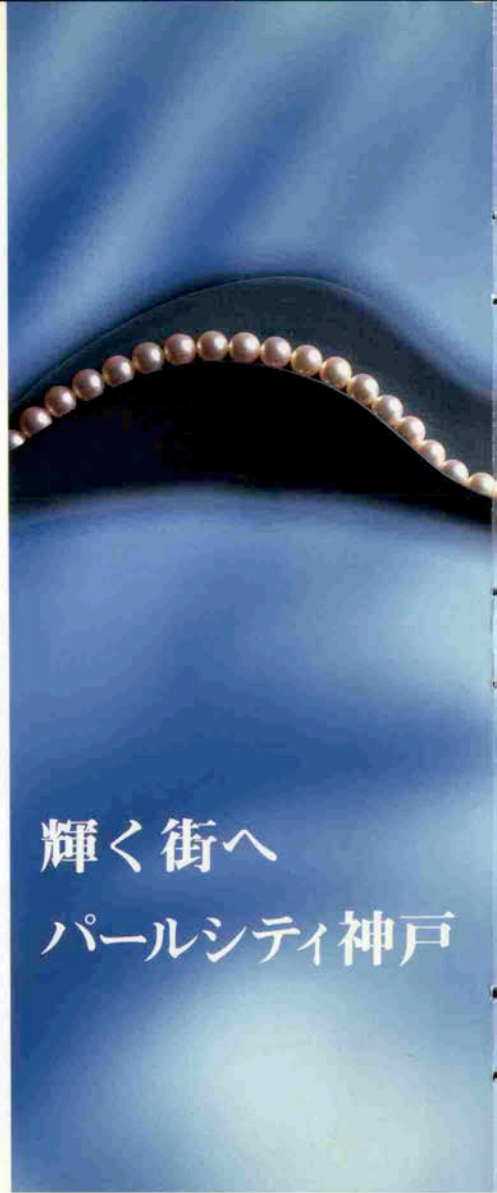
さんちか店・さんちかローザアベニュー
TEL. (078) 391-4325

西神オリエン 西神オリエンタルホテル1F
タルホテル店 TEL. (078) 997-0052

大阪・京都・岡山・東京・横浜

MIKIMOTO

神戸市中央区山本通4丁目20-1
TEL. (078) 221-9882



輝く街へ
パールシティ神戸

写真/株式会社ミキモト



タヒチ生まれの 黒蝶真珠

A HAPPY NEW YEAR
本年もよろしくお願い致します



OKUDA PEARL TRADING CO.,LTD.

奥田真珠貿易株式会社

新住所・神戸市中央区山本通1丁目6-13

TEL. (078) 252-1763

FAX. (078) 241-0216



新社屋12月25日オープン

奥田一弥さんに聞く

〈奥田真珠貿易(株)代表取締役〉



黒蝶真珠はエメラルドグリーン
の海に育まれる



黒蝶真珠のように日
焼けした奥田社長。
マニヒ島で



黒蝶真珠の網を引き上げた現地スタッフ



自ら黒蝶真珠の選別をする奥田社長

―真つ黒に焼けていらつしゃいますね。

奥田 黒蝶真珠の買い付けのため、年に七、八回はタヒチに行っていますからね。

―仏領ポリネシアですか。フランスの核実験の影響はあるんでしょうか。

奥田 週に二回あった飛行機の便が一回に減りました。現地はムロルア還礁から約千キロ離れてますから大丈夫です。ポリネシアは広いんですよ。

―他の地域の黒蝶貝では駄目なんですか。

奥田 日本のあこや貝が最も優れているように、黒蝶貝はポリネシアが一番なんです。

―黒蝶真珠は、エメラルドグリーンの海に育まれているんですね。

奥田 現地では黒蝶真珠の養殖は大産業なんですよ。全収穫量のうちの八割が日本に入ってきています。

―すごいですね。欧米では人気がないのでしょ

うか。

奥田 「黒」はあまり歓迎されませんね。染色された黒真珠と混同されている向きもあります。一時、値段が高すぎたことも原因のひとつです。

―個性的できれいですのにな。形もそれぞれ違っていて楽しいです。実は先日、黒蝶真珠のイヤリングを買ったら、今度はネックレスが欲しくなって(笑い)。

奥田 お安くいたしますよ(笑い)。昨年、梅宮辰夫さんのテレビ番組でタヒチの養殖場を放映してもらったんです。すると、視聴者プレゼントに一万五千通も応募がありました。―すごい人気ですね。私も応募すればよかった(笑い)。

ずいぶんストレスが
たまっているようじゃな
こいつを
ためしてみよう

4カムカ
1515

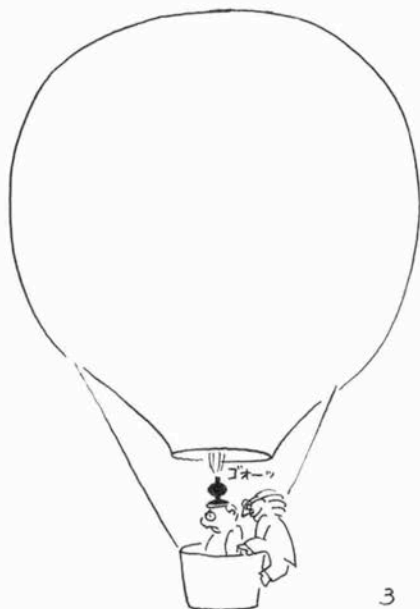


1

これは
不満やストレスを
熱エネルギーに
かえる装置じゃ



2



3



ストレス解消……!



うわーっ
こりゃ
すてきだ

作家の「物納」で設立

伊藤 誠 (美術評論家・写真家)

一人の美術家の業績を顕彰する個人美術館は、世界を見渡せばかなりの数あるだろうが、そんな美術館を一人で何館も持っているとなると、その筆頭格は二十世紀の巨匠ピカソに指を屈するのではあるまいか。なにぶん長寿で、作品を数多く作り、人気も高かった。本欄で取り上げるパリのピカソ美術館をはじめ、バルセロナ、アンチープ(フランス)のものも有名。私が訪ねたものではヴァロリス(フランス)やルツェルン(スイス)のものもある。ただし後の二館は先の



パリ・ピカソ美術館の本館建物

三館に比べると規模は小さかった。また作品「ゲルニカ」中心のものがマドリッドにある。細かく探せば、もつともつと出てくるはずだ。

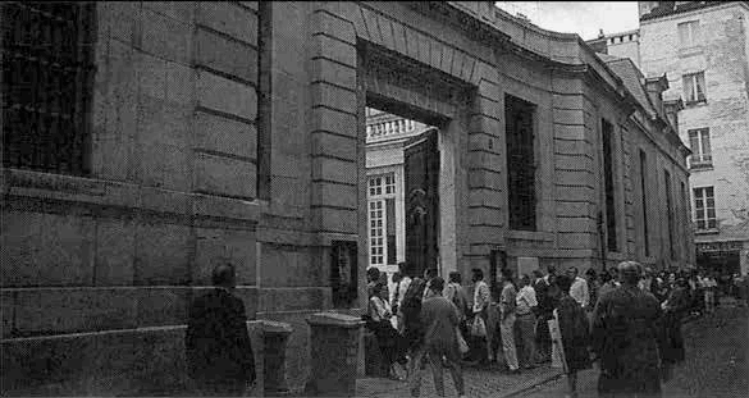
そのような中でパリのものを今回クローズアップするのは、数ある(であろう)ピカソ美術館中、作品的に充実していることと同時に、その成り立ちの経緯が非常に面白いからである。実はこの美術館の中味全部、国が税金代わりに納めさせた作品で成り立っているのである。収蔵点数―絵画二〇三点、彫刻一九一点、陶器八八点のほか素描、版画、装画本など、もろもろをそろえて三、六〇〇余点。そして、それらすべての元の持ち主がピカソ自身なのであった。

画家が九十一歳で亡くなった時、その遺産相続が大変であった。生涯正式に入籍した女性は二人だったにしろ、なにせ愛し合った人が十人前後いたのである。すでに亡くなった人があったにしても、代わりに子供たちが出来てもある。そのうえ税金である。一もめして当然であろう。

ところがフランスにはいい制度

が出来ていた。(ただそれがピカソ死去の五年前に制定されたため、あらかじめ当の巨匠を想定しての処置でなかったかと政府が勘ぐられたりもしたが)―それは、相続

ないし贈与の際に生じる譲渡税の支払いを、国の芸術的・歴史的文化財を益する物品でもって国に納入することを認める、という点である。俗に「代物弁済」「物納」といわれている制度だ。お金でなくて物品でもよろしい、ただしその物品は「国の芸術的:」云々のもの。何でもいというわけではない。幸い?にもピカソの作品はこれに該当した。作品の整理と選択に六年を要したが、遺族たちも、幾分かを国へ収めれば、相応の分け前に授かったうえ、相続貧乏にならなくていいし、すべて目出度し、目出度しということになった。結果、フランス政府も大きな収穫(前記の点数である)を挙げたことになる。いかにも「文化」国家らしい処置。パリ・ピカソ美術館の開館は一九八五年九月。たまたま開館の日には私はパリ滞留中で、当然のことながら出かけて行つてみ



開館初日、門の外まではみ出した入場者の列（昭和60年秋）

た。もちろん大変な人出。建物を囲む塀の門の外まで入館者の行列が続いている。しかし、仕事上からも歴史的な日に入ってみる必要はあろうと、少々時間のかかるのを覚悟で列ぶ。少し時間がたつと、後ろに列んだ青年が退屈しのぎに「日本人？」と英語で声をかけてくる。彼はアメリカ人で、かつて日本へ出向いたことがあり、また行ってみたいなどと言う。国民性なのかも知れないが、あの気さくさはうらやましい。でも一旦館内へ入ると、日本でのようなごった返しはない。比較的ゆつたりと

見られる感じ。つまり美術鑑賞にふさわしい雰囲気づくりのため入場制限がなされていた模様。特に開館日の故の処置かどうかは分からないが、出来れば日本の美術館でも見習いたい点である。

建物は一七世紀に出来たという豪勢な館（やかた）。最初の居住者が、塩税を取り扱う役所の長官だったというのも、税にからむちょっとした因縁だが、美術館に改造されたのたまたまいも決して悪くない。展示室は二十室。作品はおおよそ時代順に、テーマ別をも加味しながらの陳列。少年時代のものが無く、青の時代・桃色の時代あたりバリへ出てきた初期のものが手薄なのは少し残念だが、一応青年時代から最晩年まで、作品を通して巨匠の生涯が通覧できるように配慮されている。廃品を活用して新たな物体を蘇生させたような彫刻、自由にひねってデフォルメした鳥や人物ごしらえの陶芸品、総じて立体作品はユーモラスな仕上げて、作者の人物をほうふつさせる。それにしても、下手をするとは分散させてしまいかねなかった作者没後の作品群を、ともかくある程度一まとめにして恒久的保管・陳列へ一役買ったこの美術館、いや大元のフランス政府は、考えてみればいいことをしてくれた。甘い見方かも知れないが、たとえ



館内絵画展示室の一部

建物の改造に経費がかかったとしても、ある意味では世界最高のピカソ収集を、いわば「濡手で粟」式にやってのけたのだから、すごい。お見事。すでにパリでも評判の美術館にランクされて、連日大勢の鑑賞客を呼んでいる。

一作家の「物納」で一つの美術館を、などといったことは滅多に出来ることではないが、工夫をすれば一挙兩得といった処置が生まれるという事実を、日本政府にもとくと考えていただきたいものだ。税金徴収にひたすら目くらまら立ってだけでなく…。